

令和5年度 新潟県立阿賀黎明高等学校 第2回 学校運営協議会 議事録

1 日時

令和5年10月10日（火）10時～12時

2 会場

県立阿賀黎明高等学校 多目的ホール



3 参加者

委員7人（欠席者なし）

県教育委員会2人

（オブザーバー参加）

- 阿賀黎明高校魅力化プロジェクト関係者7人
- 阿賀黎明探究パートナーズ関係者3人
- 阿賀黎明高等学校教職員4人

計23人

4 次第及び発言の概要

(1) 開会 会長挨拶（遠藤会長）

- 一昨日、阿賀町の一大イベントである狐の嫁入り行列が行われ、阿賀黎明高校の生徒も巫女役やロープを引っ張る役で頑張っていた。
- 本日は報告等を交えて御意見等をいただき、今年度後半や来年度へ向けた議論をしていければと思う。

(2) 校長挨拶（伊藤校長）

- 本校の特色である地域と連携した活動を引き続き、皆様の御助言、地域の方の支援のもと取り組んでいる。
- 今年度の地域と連携した活動について、新たに阿賀津川中学校の1年生本校2年生が合同で行う活動を3回実施しました。今年の活動をベースにして来年度さらに発展した活動を行えればと思っている。6月実施の体育祭では、競技種目の中に一般の方が参加できる種目を取り入れたり、地域のお店のマルシェを実施したりした。また、教科活動においても家庭科の消費生活とフードデザインで地域と連携した活動を行っている。
- 県外からの生徒募集では、阿賀町教育委員会、黎明学舎、緑泉寮の協力も得て、生徒が企画したまなび体験会を実施した。この取組みも試行錯誤しながらも、本校の特色ある活動が県外の中学生や保護者に周知され、目的意識を持った生徒が入るようになってきている。県内の中学校に対しては、通学可能な中学校へ校長が訪問し、特色のある教育活動や公共交通機関の接続を見やすくまとめたオリジナルの時刻表等を用いた説明を実施している。
- 入学選抜は一般選抜の他、調査書や面接等の特色化選抜（ボート・地域連携）

を行っている。地域連携は昨年度志願者がいたが、ボートの特色化選抜の志願者がここ2年おらず、県内にボートをやっている学校が少ないことやコロナ禍で県外からの進学者が低調になっているといった理由が考えられる。そのため隣県の中学校でボート部のある学校に学校・寮・特色化選抜の案内をしている。令和7年度以降の入学生について、スポーツに関する特色化選抜の必要性について検討してほしいとの指導が県教育委員会からあった。引き続き県外のボート部のある中学校へ案内をしながら実施の必要性について検討していきたい。

- 文部科学省のCOREハイスクールネットワーク事業が今年3年目となり、11月14日に最終事業報告を朱鷺メッセで実施予定である。遠隔授業は、昨年度の科目に加えて地学基礎、書道を加えた4科目で実施している。来年から県の事業として実施予定となっている。実施の目的は、小規模校で専門性の高い教育・授業の質の維持。来年度は、理科・社会で専門教員のいない科目の実施について県と協議していきたい。
- 中教審で「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策」の緊急提言が出ており、教員の時間外勤務の改善について話が出ている。本校は地域の方の熱いエネルギーによって地域連携活動を推進しているが、こういった提言も踏まえながら地域連携活動を推進していきたい。御理解と御協力をお願いします。
- 熟議ではスクール・ポリシーの策定について御助言をいただければと思っている。本校のスクール・ミッションは「コミュニティ・スクールとして地域と協働し、地域を共につくる人材を育成する学校」。スクール・ミッションとは、簡単に言うと「目指す学校のありかた」で、学校の存在意義や、期待されている社会的役割、目指すべき学校像を示したもの。スクール・ポリシーは、学校の教育活動の指針でありスクール・ミッションをふまえて定めるもので、①卒業の認定に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）、②教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、③入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）の3つある。

本校の特色ある学びを通してどういう力を育成していくかを中心にご意見をいただければと思っている。本校らしい表現で重点を絞ったものを策定できればと思う。

(3) 「地域みらい留学」への参加（西田地域学校協働推進委員）

- 主に県外からの生徒募集について説明する。
- 今年度4年目となりオンラインでの説明会、学校見学&まなび体験会を行っている。
- 実績としてはオンライン説明会の参加者がのべ81名、現地見学会への参加が21家族。その他現地見学2家族。
- 昨年度比較で1.5倍の見学者数。来週から入寮希望調査を受け、オンラインでの面接を行い、入寮許可者を決めて入試へ臨む流れとなる。

(4) 授業における地域との連携（加藤コーディネーター）

- 1年阿賀町さいこうプロジェクトでは、阿賀町社会福祉協議会と連携し10月27日

に地域のいきいきサロンや老人クラブでレクリエーションを企画・実施する。

- 2年阿賀町さいこうプロジェクトでは、本校2年生が実施したプロジェクトに中学1年生が参加をする形で中高連携を実施している。
- 2年地域学は今年度で3年目。阿賀黎明探究パートナーズおよび地域パートナーと一緒にプロジェクト活動を実施する予定。
- 3年地域学はふるさとCM大賞を題材に実施。合計3本作成し、うち1本はふるさとCM大賞へ阿賀町として応募。
- 3年消費生活では、9月上旬まで麒麟山酒造、榊屋商店と連携して酒づくり・米づくりを通じた地域社会での消費を学んでいる。9月中旬からはれふえり、目黒農園と連携してジェラートづくりを通じた地域社会での消費を学ぶ活動をしている。ジェラートは11月の文化祭で販売予定。
- 3年フードデザインでは、清川高原保養センターで食をテーマとした地域における暮らしかたを学ぶ活動をしている。

(5) 質疑応答

(遠藤会長)

高校主催の見学会のところに県外の中学校の参加希望者が書いてあるが、みらい留学を通じた参加者か単独参加者か。

(西田地域学校協働推進委員)

みらい留学を通じた参加者。

(加藤PTA会長)

学校説明会について、町内に2校があるが1校になっているのは理由があるのか。

(伊藤校長)

経緯はわからないが、阿賀津川中学校が来校しての説明会は私が赴任した時から行っていた。こちらから中学校に出向く形でも実施している。来年度は学校説明等で三川中学校へも呼んでいただけることとなっている。

(齋藤委員)

校長先生の話の中で体育祭の中で競技に一般の方の参加も募ったということだったが、保護者以外はどれくらいの参加があったか

(伊藤校長)

あらかじめ案内したのではなく当日その場で案内した形だったため10名程度の参加だった。今後また広げていきたい。今回は試験的にやってみた。

(齋藤委員)

県外からの生徒募集が進んでいるが、受け入れ場所はどうか町としてどう考えているか。

(遠藤会長)

寮の定員は28人。現在は18名。3学年で18名なので足りているが、このまま行くと年間10名か10名を切る人数しか入寮できない。今後入寮希望者が年々増える、または安定的に断らないといけない事態が起こるなら考えないといけないが、今のところ施設を新設することは考えていない。10名程度の定員で考え、それを超える希望があれば

ばそれはそれで考えていく必要があると思う。

(齋藤委員)

特色化選抜の地域連携はどのような人物を求めているか

(伊藤校長)

中学校の総合の時間や校外活動で地域と連携した活動を行い、本校の活動でさらに取り組みを深めたい生徒。

(齋藤委員)

実績はあるか。

(伊藤校長)

今年度は4名。

(猪俣副会長)

現時点で、阿賀黎明高校を希望している生徒はどれくらいになりそうか。また、阿賀黎明高校としては地域と連携した活動における生徒の様子を教えていただきたい。

(国本委員)

流動的だが希望を聞くと阿賀黎明高校が増えている状況である。

(加藤コーディネーター)

中高連携において、高校生と中学生でグループをつくって活動をした中で高校生のリーダーシップが見えた。

3年フードデザインは生徒が1名だったため、生徒のやりたいことに合わせて授業を設計できている。人数が多くなると難しい部分はあるが、大人が生徒の声を引き出すことで地域の資源・課題とうまくマッチングできることがわかった。

人数が増えても生徒のニーズを授業に反映させる仕組み・体制づくりが今後の課題。

(西田地域学校協働推進員)

3年消費生活では、7回にわたり麒麟山酒造さんと授業をさせていただいた。地域社会のつながりを構造的に捉えるという部分でよかった。地域社会の一員として自分ができることを今後見出せればいいなと思うし、高校生が感じたことを企業にフィードバックしていくことで企業にも価値があったのではないかな。

(清田委員)

校長先生の話の中でボートの特色化選抜が2年間ないということだったが、もう少し詳しく教えてほしい。

(伊藤校長)

中学校の方でクラブ活動の地域移行をしている中でスポーツの特色化選抜について必要性を検討してほしいという指示が来ている。今年は隣県のボート部のある中学校に案内はしている。来年はさらに案内する学校を拡大し、ボートの特色化選抜に出願があるか見ていきたい。本校や阿賀町の特色でもあり、本校にとっても伝統のある部なので続けていきたいが、生徒数が減る中、部員を確保し、部を維持していくことが難しくなっている。これからもいろいろ工夫をして存続していきたい。

(6) 指導・助言（齋藤指導主事）

スクール・ポリシーの策定が全県立高校・中等教育学校における大きい仕事になる

かと思う。地域の方や保護者の方にも関わっていただき、実効性のあるものを作り出していただきたい。

新潟の未来をS a G a S uプロジェクトが国の委託事業としては最終年度となるため、どのような方向性に持っていきたいかを皆さんと共有したい。

佐渡市と阿賀町と2つの自治体の協力をいただきながら遠隔授業・地域連携・地域協働の3本柱に取り組んでいる。

遠隔授業はのべ16科目配信が行われている。阿賀黎明高校が目目されていることは、実技系科目の遠隔授業として書道を実施していること。2つ目は、事務室の鈴木職員の御協力をいただいて、教員以外で受信教室の補助体制をどこまでできるかを検討している。書道では書画カメラやiPadを使って的確に指導が行われている。

新しい試みとして、1つの配信校から2つの受信校に同時に配信している。テレビ会議システムで教室の広がりを持たせながら授業が展開されている。トライアルに向け、阿賀黎明高校・羽茂高校で時間割を揃えて合同授業ができるようにという環境を整えていただいた。

また、3つの班に分かれて生徒間交流を行っている。ゼミ班は民謡・伝統芸能、交流班とは広島・長崎の高校が接点を求めている。発信班は、地域や学校の魅力を発信している。

8月24日にnote株式会社と連携協定を結び、高校魅力化の観点からメディアプラットフォームを使った発信をおこなっている。学校HPとリンクさせているところが多い。市町村教育委員会に対しても周知のための通知を出している。中学校でも各高校の魅力を理解いただければと思う。

地域との連携・協働の取り組みについて、佐渡でも阿賀でも様々な取り組みを行っている。文部科学省の研究協議会において、阿賀黎明高校のコミュニティ・スクールの取組を紹介させていただいた。地元の多くの方々によって議論、伴走化されているところが他のモデルにもなると考えている。

今後の方向性として、一番大きなトピックは中卒者数の減少。約15年後、1万1千人台となる。こうした環境下で遠隔授業が必要な教育環境になると思っている。遠隔授業を拡大しつつ、対面授業においてもICTを活用した生徒の学びの充実を訴えていかなければならない。

生徒間交流については、アンケートをとるたびに色々な力をつけたいという回答が返ってくる。物事に進んで取り組む力、わかりやすく伝える力など、つけたい力を自覚するタイミングをもつことができた。なお、今年度から、県立中等教育学校でも学校間連携の取り組みを始めた。

地域の資源を活用させていただきながら、学校の魅力化や地域のブランディングにどうつながるかを3年間の総括として考えていきたい。

地方公立高校の強みは地域に根ざした活動ができること。11月14日火曜日にS a G a S uシンポジウムを開催する。午前中は中央教育審議会会長の荒瀬先生の講演を予定している。午後は関係各位の取組発表とともに、教職員や地域の方、生徒でパネルディスカッションを実施する予定である。

(7) 次回開催日時

1月中旬を予定。後日、調整する。

(8) 閉会 副会長挨拶（猪俣副会長）

新潟県教育委員会からの参加に感謝申し上げます。

特色を言語化することは難しいなというのが率直なところ。どのような魅力を持ってポリシー策定に望むか、本日だけでは時間が足りなかった印象もあり、可能であればこれだけのテーマで別に時間をとり、もう1度皆さんで話して、阿賀黎明高校の今後について話す事も大事ではないか。

先生方の働き方改革も重要なテーマだ。学校の先生方に良い教育をしてもらうために、地域はどう関わっていくのがベターなのか模索できればと思う。

今回は雪の中、かつ忙しい時期になると思うが、皆様のご参加をお願いしたい。